

# Kansai Economic Insight Monthly

2019/9/24

Vol.77 August/September

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR数量分析センター長)、KARAVASILEV Yani (各APIR研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)、Cao Thi Khanh Nguyet(関西学院大学講師)、野村亮輔、車競飛(APIRインターン)です。

▼本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を公表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

## 目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	10
中国景気モニター	11
主要月次統計	15
Release Calendar	16

## 要旨

### - 景気は足下・先行きともに悪化\* -

- ✓ 7月の生産(季節調整値)は2カ月ぶりの前月比プラス、原系列は8カ月ぶりの前年比増加となった。近経局は生産の基調判断を「生産は緩やかな持ち直しの動き」と前月から上方修正した。
- ✓ 8月の貿易収支は3カ月連続の黒字だが、輸出入ともに減少し、貿易総額は対中国を中心に9カ月連続で減少。米中貿易摩擦長期化による中国経済の減速の影響が大きい。対韓輸出管理の厳格化が注目されているが影響は今のところ限定的とみている。
- ✓ 8月景気ウォッチャー現状判断DIは、4カ月ぶりに前月比改善だが、先行き判断については2カ月連続で悪化。消費増税前の駆け込み需要への期待や増税後の反動減の懸念の影響がみられる。
- ✓ 6月の現金給与総額は滋賀県が2カ月連続、兵庫県が23カ月連続、京都府が4カ月ぶりにそれぞれ増加。一方、奈良県は12カ月連続、和歌山県は5カ月連続でそれぞれ減少した。
- ✓ 7月の大型小売店販売額は3カ月ぶりに前年を下回った。インバウンドの高額品購入が好調で百貨店は小幅プラスに寄与。一方、夏物商品が伸び悩み、スーパーはマイナスの寄与となった。
- ✓ 7月の新設住宅着工戸数は4カ月ぶりの前年比増加。分譲は減少したが、持家、貸家は増加した。1-7月期の持家は前年同期比+9.7%増加にとどまり、前回に比して駆け込み需要は小規模。
- ✓ 7月の有効求人倍率は前月比小幅のマイナスだが、求人数は同横ばい、求職者数は3カ月連続で増加した。完全失業率は前月比マイナス。雇用情勢は堅調である。
- ✓ 7月の建設工事出来高は17カ月連続の前年比増加。8月の公共工事請負金額は2カ月ぶりに増加し、持ち直しの動きがみられる。
- ✓ 8月の関空の外国人入国者数は前年比+4.9%で11カ月連続のプラスだが、伸びは前月(同+15.5%)から減速。日韓関係の悪化による航空路線の運休・減便の影響がみられる。
- ✓ 8月の中国経済は減速感が強まっている。社会消費品小売総額の伸びは自動車市場の継続的な低調(前年比-8.1%)の影響を受け、前月より小幅減速。固定資産投資の伸びは2カ月連続で減速し、とりわけ工業部門(同+2.2%)が目立った。米中貿易摩擦が激化しつつ、貿易総額は4カ月連続で縮小している。

【関西経済のトレンド】

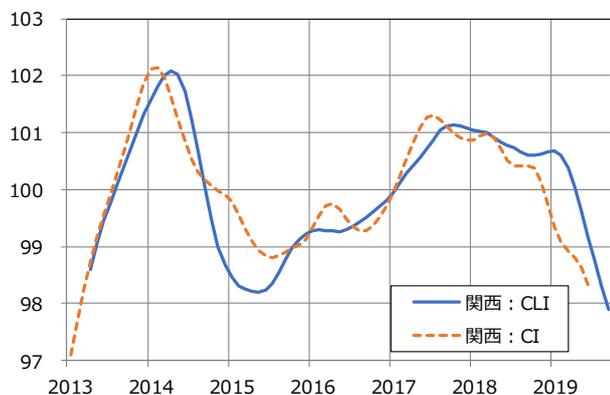
	2018年					2019年							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
生産	↑	↓	↑	↓	↓	↓	↑	↓	↑	↑	↓	↑	
貿易	→	↓	→	↓	↓	↓	↑	↓	↓	↓	→	→	↑
センチメント	↑	→	↑	→	↓	↓	↑	↓	→	↓	→	↓	↑
消費	→	↓	→	↓	→	↓	↓	→	→	→	→	↓	
住宅	→	↑	↓	→	↑	↑	→	↑	↓	↓	→	↑	
雇用	↑	↑	↓	↓	↓	↓	↑	→	↑	↓	↓	↓	
公共工事	↓	↓	↓	↑	↓	↑	↑	↓	→	↑	↑	→	↑
中国	→	↓	↓	↓	↓	↓	↓	→	↓	↓	→	↓	↓

(\*トレンドの判断基準)

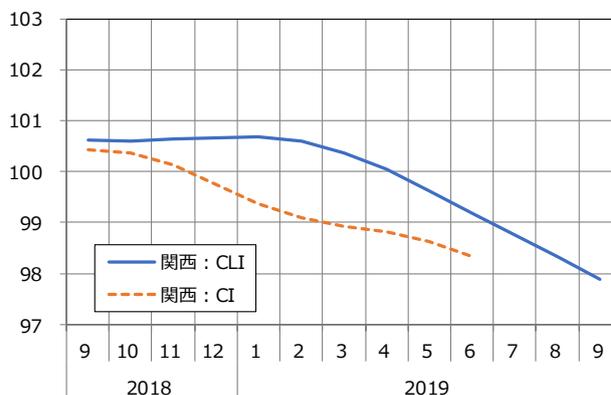
- ・**生産**：近畿経済産業局『近畿地域幅広い工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・**公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2013年1月~2019年9月)



直近1年間のCI・CLIの推移(2018年9月~2019年9月)



## 【鉱工業生産動向】

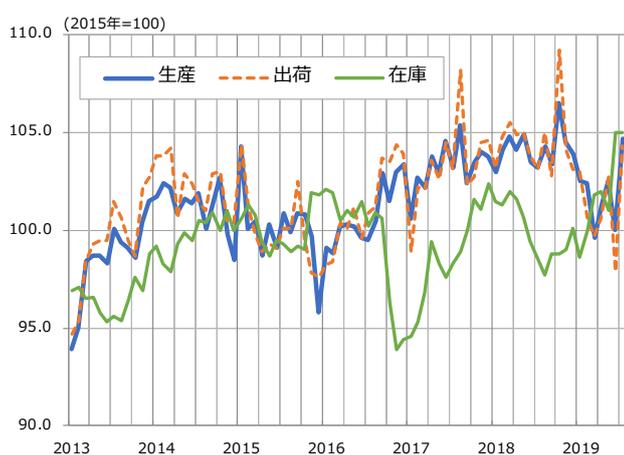
### (1) 関西の生産動向

関西7月の鉱工業生産動向(速報値:季節調整済、2015年=100)を見ると、生産は104.7で前月比+4.7%、出荷は104.3で同+6.5%とそれぞれ2カ月ぶり大幅に上昇した。在庫は105.0で、同横ばいであった。近畿経済産業局は同月の基調判断を、「生産は緩やかな持ち直しの動き」と前月から上方修正した。なお、生産指数の原系列を見れば、前年同月比+3.1%と、8カ月ぶりの増産となった。

7月の生産指数を業種別にみると増産となったのは、汎用・業務用機械工業(前月比+20.4%、2カ月ぶり)、電気・情報通信機械工業(同+8.0%、4カ月連続)、電子部品・デバイス工業(同+11.3%、3カ月ぶり)等であった。一方、減産となったのは、金属製品工業(同-3.1%、4カ月ぶり)、窯業・土石製品工業(除.医薬品)(同-1.4%、2カ月ぶり)、パルプ・紙・紙加工品工業(同-1.0%、2カ月ぶり)等であった。

なお、生産と強い関係がある実質輸出(季節調整済、2015年=100)を見ると、7月(確報値)は113.0で、前月比+4.9%と2カ月連続のプラス。

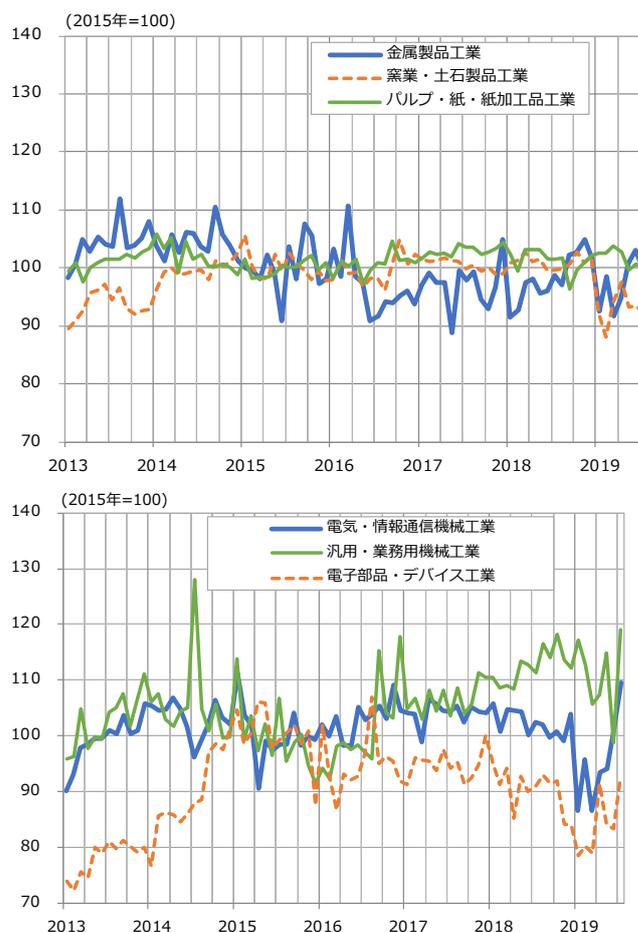
関西の鉱工業生産動向の推移(2013年1月~2019年7月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2013年1月~2019年7月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

### (2) 全国の生産動向

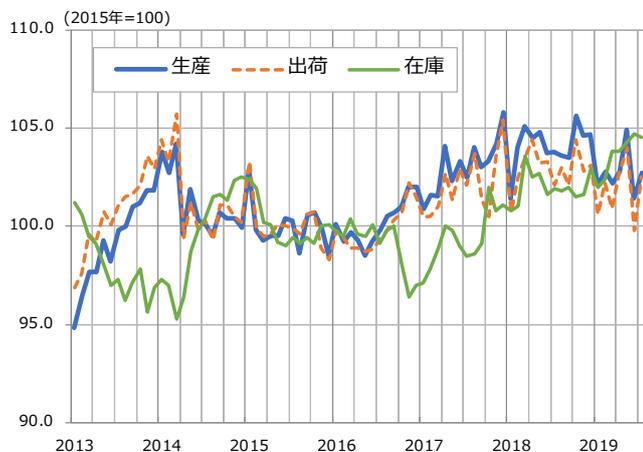
全国7月の鉱工業指数(確報値:季節調整済、2015年=100)を見ると生産は102.7で前月比+1.3%、出荷は102.5で同+2.7%と、それぞれ2カ月ぶりに上昇した。一方、在庫は104.5で同-0.2%と、6カ月ぶりに低下した。

7月の生産指数を業種別にみると、自動車工業(前月比+2.1%)、パルプ・紙・紙加工品工業(同+7.5%)、その他工業品(同+2.1%)等が増産となった。一方、無機・有機化学工業(同-3.9%)、石油・石炭製品工業(同-3.8%)、電気・情報通信機械工業(同-0.1%)等が減産となった。

なお、製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、8月は前月比+1.3%と増産が、9月は同-1.6%と減産が予測

されている。

全国の鉱工業指数の推移(2013年1月～2019年7月)



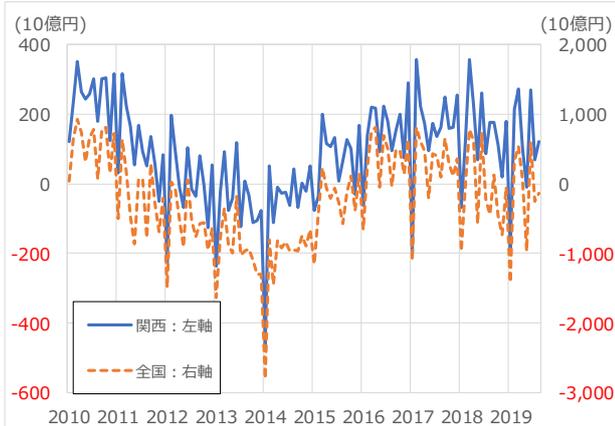
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

## 【貿易動向】

### (1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西8月の貿易収支は+1,210億円と3カ月連続の黒字となったが、中身はよくない。輸出額は10カ月連続の前年比マイナス。輸入額も4カ月連続の同マイナスとなっており、ともに減少幅が前月から拡大している。結果、輸出入の合計である貿易総額も同-11.8%(前月:同-1.2%)と9カ月連続で縮小している。

関西・全国の貿易収支の推移(2010年1月～2019年8月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

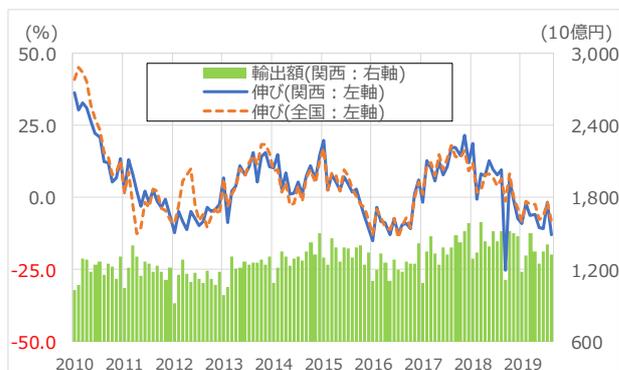
また、全国8月の貿易収支(速報値)は-1,363億円となり、関西とは逆に2カ月連続の赤字となった。貿易総額は4カ月連続で縮小している。

### (2) 輸出

中国経済の減速、日韓貿易関係の悪化もあり、アジア向け輸出の依存が高い関西にはその影響が色濃く出ている。関西8月の輸出額(速報値)は1兆3,214億円で前年同月比-12.9%減少した。減少幅は大型台風の影響があった昨年9月(-25.1%)を除けば2016年1月(-14.9%)以来の大きさである。財別にみれば、主に半導体等製造装置(-46.7%)や原動機(-22.9%)が落ち込んだ影響が大きい。

なお、日銀の実質輸出(季節調整値、2015年平均=100)によると、8月(速報値)は105.7となり、前月比-6.4%と3カ月ぶりのマイナスである。

関西・全国の輸出の推移(2010年1月～2019年8月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

全国8月の輸出額(速報値)は6兆1,410億円で、前年同月比-8.2%と9カ月連続の減少。財別にみれば、主に自動車、半導体等製造装置、自動車の部分品等が減少した。

### (3) 輸入

関西8月の輸入額(速報値)は1兆2,004億円で、前年同月比-10.5%減少した。財別にみれば、天然ガス及び製造ガス(-38.4%)、半導体等製造装置等(-80.5%)が減少した。

なお、日銀の実質輸入(季節調整値、2015年平均=100)によると、8月(速報値)は103.3となり前月比-5.3%と減少し、2カ月ぶりのマイナス。

全国8月の輸入額(速報値)は6兆2,773億円で、前年同月比-12.0%と4カ月連続の減少となった。財別にみれば、原粗油、液化天然ガス、石炭等が減少した。

関西・全国の輸入の推移(2010年1月～2019年8月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

#### (4) 関西の地域別貿易

関西 8 月の貿易収支を地域別にみると、対アジア(含中国)の貿易収支は+2,224 億円と 7 カ月連続の黒字となった。前年同月比でみると黒字幅は-15.0%と 6 カ月連続で縮小した。輸出(8,748 億円)は 10 カ月連続で減少(同-14.1%)。財別にみれば、半導体等製造装置、科学光学機器等が減少した。輸入(6,524 億円)は 2 カ月ぶりの減少(同-13.8%)。主に天然ガス及び製造ガス、通信機等が減少した。

うち、対中貿易収支は-215 億円と 2 カ月連続の赤字となった。赤字幅は前年同月比拡大した(同+100.4%)。輸出(3,268 億円)は 12 カ月連続の減少(同-16.7%)。財別にみると、半導体等製造装置、科学光学機器等が減少した。輸入(3,483 億円)は 4 カ月連続の減少(同-13.5%)。財別にみると、通信機、衣類及び同附属品等が減少した。

対米貿易収支は+509 億円の黒字となったが、黒字幅は前年同月比-37.0%縮小した。輸出(1,830 億円)は 2 カ月ぶりのマイナス(同-12.5%)。財別にみれば、電池、医薬品等が減少した。輸入(1,321 億円)は 3 カ月ぶりのプラス(同+3.1%)。財別にみれば、医薬品、原油及び粗油などが増加した。

対 EU 貿易収支は+61 億円と 2 カ月ぶりの黒字となった。輸出(1,523 億円)は 3 カ月ぶりのプラス(同+0.2%)。財別にみれば、遊戯用具、無機化合物等が増加した。輸入(1,462 億

円)は 4 カ月連続の減少(同-0.2%)。財別にみれば、非鉄金属、医薬品等が減少した。

#### 【対韓貿易動向】

7 月 4 日に日本政府が半導体材料 3 品目、感光材(レジスト)、エッチングガス(フッ化水素)、ディスプレイ用樹脂材料(フッ化ポリイミド)の韓国への輸出管理を厳しくして以来、その動向が注目されている。8 月の韓国向け輸出額は 915 億円と前年同月比-18.1%減少した。10 カ月連続の前年比マイナスで、減少幅は 7 月(-5.5%)から拡大した。

うち半導体材料 3 品目の 1 つであるフッ化水素など無機化合物は前年同月比-68.7%減の 16 億円で対韓輸出全体の 1.7%と限定的である。日本政府は 8 月、フッ化水素の輸出の一部に個別許可を出したが、9 月後半時点でも新規の輸出許可が降りず、輸出できない企業があるので、今後の影響については引き続き注視が必要である。

#### 【消費者センチメント】

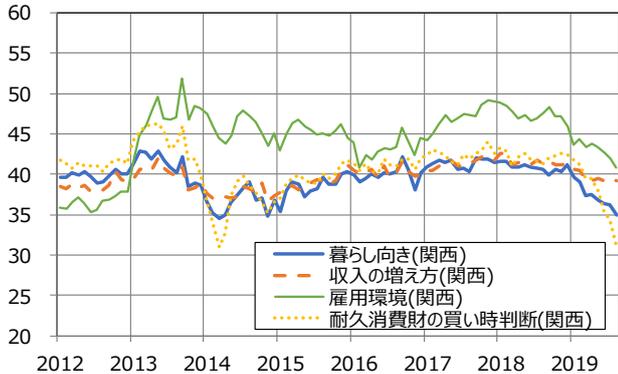
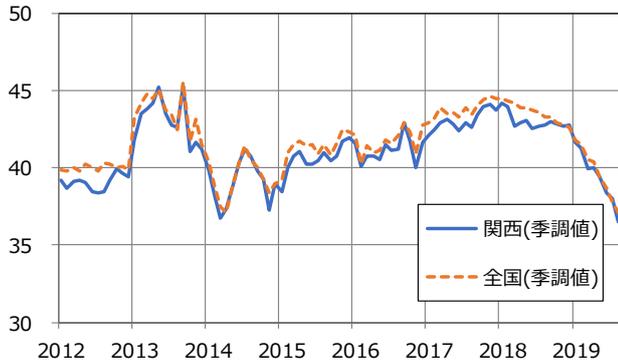
##### (1) 消費者態度指数の動向

関西 8 月の消費者態度指数(季節調整値:APIR 推計)は 36.5 と前月比-1.5 ポイント低下し、4 カ月連続の悪化となった。同指数を構成する 4 指標全てが前月から悪化した。耐久消費財の買い時判断指数(31.0)は前月比-3.4 ポイント低下し、9 カ月連続の悪化。暮らし向き指数(34.9)は同-1.3 ポイント、雇用環境指数(40.9)は同-1.1 ポイントと、それぞれ低下した。いずれも 4 カ月連続の悪化。収入の増え方指数(39.2)は同-0.3 ポイント、2 カ月ぶりに悪化した。

全国(季節調整値)は 37.1 と前月比-0.7 ポイント低下し、11 カ月連続で悪化した。結果、2014 年 4 月以来、5 年 4 カ月ぶりの低水準(39.0)となった。消費増税に対する懸念が消費者心理を冷やしているようである。同指数を構成する 4 指標のうち 3 指標が前月より悪化した。耐久消費財の買い時判断指数(31.7)は同-1.7 ポイント低下し、8 カ月連続の悪化。暮らし向き指数(34.8)は同-1.0 ポイント、雇用環境指数

(42.2)は同-0.4ポイント低下し、いずれも4カ月連続の悪化。一方、収入の増え方指数(39.5)は前月から横ばいであった。結果、内閣府は基調判断を「弱まっている」と6カ月連続で据え置いた。

消費者態度指数の推移(2010年1月~2019年8月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

## (2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西 8月の景気ウォッチャー現状判断 DI(季節調整値)は45.3と前月比+1.5ポイント上昇し、4カ月ぶりの改善だが、9カ月連続で50を下回った。8月の気温上昇により夏物商材の需要は高まったものの、秋物商材の販売に一部マイナスの影響がみられるようである。インバウンド需要については日韓関係の悪化に対する懸念の声がみられる。

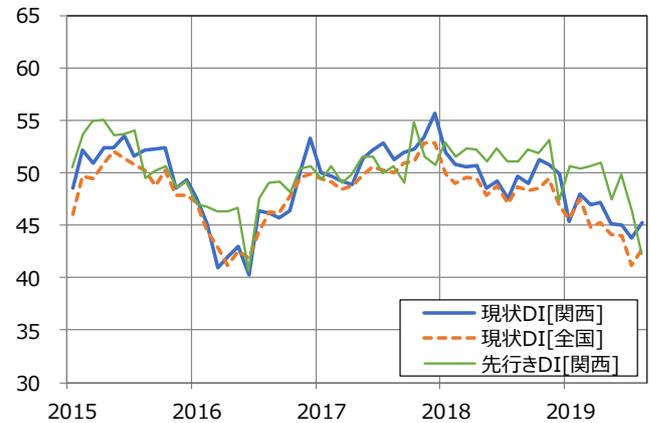
全国の前月比は42.8と同+1.6ポイント上昇し、4カ月ぶりに改善した。消費増税前に駆け込みの需要の期待が押し上げたようである。

先行き判断 DI(季節調整値)は、関西で42.3と前月比-4.0ポイント低下し、2カ月連続の悪化。消費増税の実施、米中貿易摩擦や現状での見方と同様に日韓関係悪化に対する不

安の声がみられる。

全国は同-4.6ポイント低下し39.7と2カ月連続で悪化した。

景気ウォッチャー調査の推移(2010年1月~2019年8月)



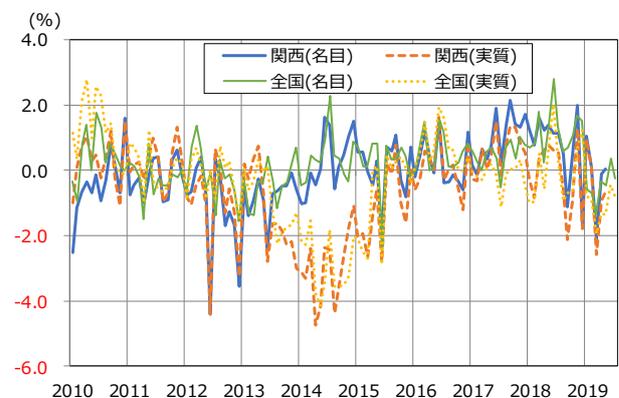
(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

## 【所得・個人消費】

### (1) 現金給与総額

6月の現金給与総額を公表府県別に見ると、滋賀県が前年同月比+3.3%(2カ月連続)、兵庫県が同+0.4%(23カ月連続)、京都府が同+0.3%(4カ月ぶり)とそれぞれ増加した。一方、奈良県は同-4.2%(12カ月連続)、和歌山県は同-3.4%(5カ月連続)とそれぞれ減少した。なお、大阪府は統計調査員の不適切な事務処理が行われていたことにより6月分の公表が延期されている。

現金給与総額の推移(2010年1月~2019年5月)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。なお、グラフは全国:7月、関西:5月。

(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成

全国7月の現金給与総額(確報値)は、前年同月比-1.0%減少し、2カ月ぶりのマイナス。内訳を見ると、所定内給与は同+0.1%と4カ月ぶりに増加。所定外給与は同+0.1%と2カ月ぶりに増加。特別に支払われた給与は同-3.3%と2カ月ぶりに減少した。また、現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた7月の実質現金給与総額は同-1.7%と7カ月連続の減少となった。

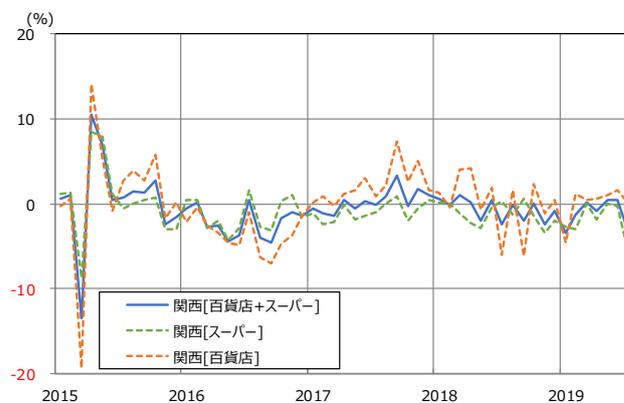
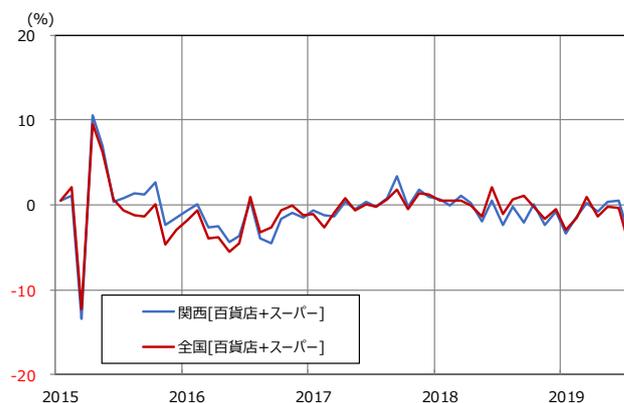
## (2) 大型小売店販売額

関西7月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は3,196億円となり、前年同月比-3.4%と2カ月ぶりに前年の水準を下回った。うち、百貨店は同+0.0%と、6カ月連続のプラス。好調なインバウンドにより宝飾品等の高額品がプラスに影響した。日本人消費も前年を超えた。なお、8月の関西の百貨店免税売上高(日銀大阪支店)は同+1.2%小幅増加し、7カ月連続のプラス。同月の訪日韓国人数(全国ベース)は同-48.0%減少したこともあり、前月の二桁の伸び(+10.1%)から大幅減速した。一方、一件当たりの売上単価は同+5.1%と2カ月連続のプラス。

スーパーの販売額は前年同月比-5.9%と、2カ月連続のマイナス。梅雨明けの遅れや気温の低さにより夏物商品が不調だったことに加え、日曜日が一日少なかった。

全国7月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆6,242億円となり、前年同月比-4.5%と4カ月連続のマイナス。うち、百貨店は同-3.7%と13カ月連続のマイナス。スーパーは同-4.9%と3カ月ぶりのマイナス。なお、小売業販売額指数(季節調整済、後方3カ月移動平均)は前月比-0.6%と4カ月ぶりのマイナス。経済産業省は小売業の基調判断を「一進一退」と前月の「持ち直しの動きがみられる」から下方修正した。

大型小売店販売額の推移 (2010年1月~2019年7月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

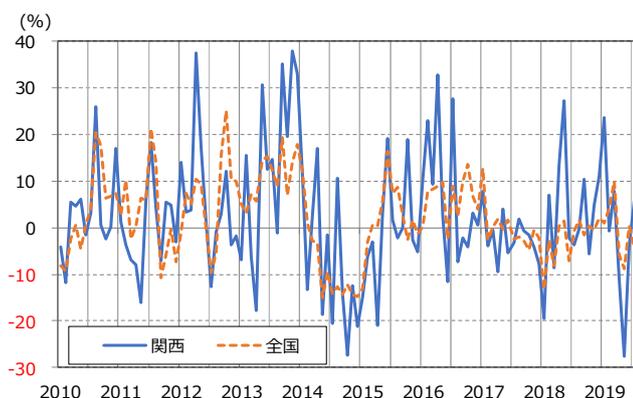
## 【住宅投資】

### (1) 新設住宅着工の動向

関西7月の新設住宅着工戸数は12,849戸と前年同月比+5.7%と4カ月ぶりに増加した。利用関係別に見ると、分譲以外、持家と貸家の着工が好調であった。持家は3,499戸で、同+14.8%と12カ月連続で増加。貸家は5,354戸で全国と異なり、同+11.9%と6カ月ぶりに増加し、全体を押し上げた。一方、分譲は3,777戸で同-12.2%と2カ月ぶりの減少となった。うち、マンションは1,657戸となり、同-33.5%と前月(同+45.9%)から大幅減少した。

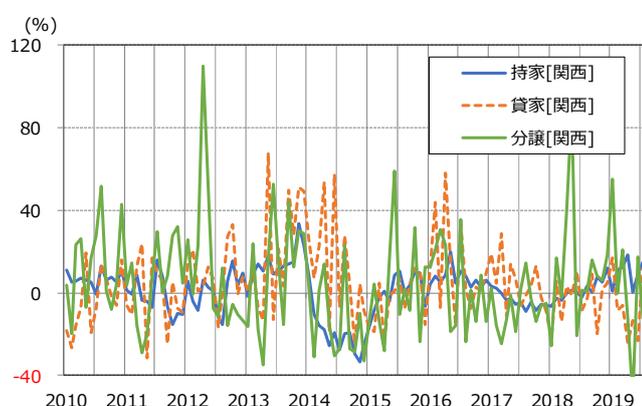
なお、2019年1-7月期の持家は前年同期比+9.7%増加した。前回の増税前の同期間(13年7月-14年1月)では、同+16.8%であるから、今回の消費増税による駆け込み需要は小規模である。

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月～2019年7月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月～2019年7月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

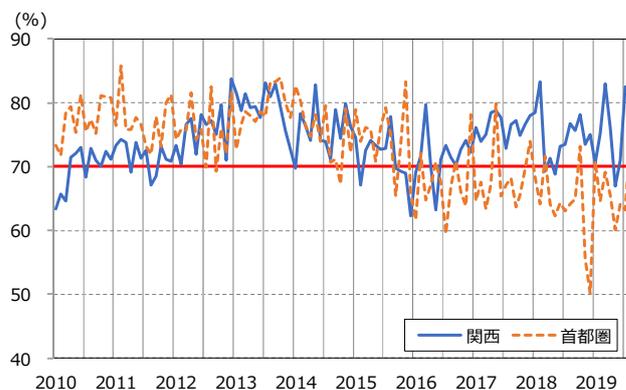
全国7月の新設住宅着工戸数は79,232戸となり、前年同月比-4.1%と2カ月ぶりの減少となった。利用関係別に見ると、持家と分譲は増加したが、貸家は減少した。貸家は30,383戸(同-15.2%)と11カ月連続で減少し、全体を押し下げた。金融機関が貸家向け融資の審査を厳しくしているためである。一方、持家は26,282戸(同+3.3%)と10カ月連続の増加。分譲は21,942戸(同+5.1%)と2カ月連続の増加。うち、一戸建ては13,074戸(同+8.9%)で、2カ月連続の増加となった。

## (2) マンション市場動向

関西8月のマンション契約率(売却戸数/発売戸数)は80.9%(季節調整値: APIR 推計)となり、前月から-1.7%ポイント減少し、3カ月ぶりのマイナスだが、80%を2カ月連続

で上回った。契約率を地域別にみると、大阪市部(93.3%)、京都市部(89.2%)、神戸市部(79.3%)が高水準を記録し、発売戸数の多い大阪市部の契約率が好調であった。一方、低水準だったのは奈良県(47.4%)及び滋賀県(36.4%)であった。

関西・首都圏のマンション契約率の推移(2010年1月～2019年8月)



(出所) 株式会社不動産研究所「マンション市場動向」

同月の首都圏のマンション契約率は75.0%(季節調整値: APIR 推計)と前月比+11.9%ポイントと2カ月ぶりの上昇となり、7カ月ぶりに70%を上回った。

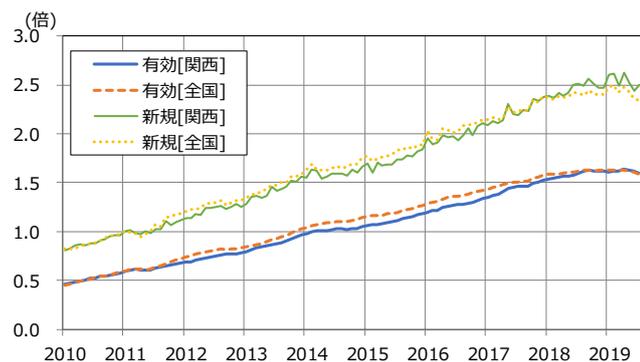
## 【雇用動向】

### (1) 求人倍率の動向

関西7月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.60倍で前月比-0.02ポイント低下し、3カ月連続の悪化となった。内訳をみると、有効求人数は同+0.0%で横ばい、有効求職者数は同+1.3%で3カ月連続の増加。前月に引き続き、後者の伸びが前者を上回った。

府県別に見ると、滋賀県が1.36倍で前月比横ばい。一方、奈良県が1.48倍で同-0.05ポイント(2カ月ぶり)、大阪府が1.77倍で同-0.03ポイント(2カ月連続)、兵庫県が1.41倍で同-0.02ポイント(2カ月連続)、和歌山県が1.43倍で同-0.01ポイント(2カ月連続)、京都府が1.62倍で同-0.01ポイント(2カ月ぶり)と、それぞれ悪化した。

求人倍率(受理地別)の推移(2010年1月~2019年7月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下の表も同様)

関西2府4県有効求人倍率(2019年6月~7月)

	全国	関西	滋賀県	京都市	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
6月	1.61	1.62	1.36	1.63	1.80	1.43	1.53	1.44
7月	1.59	1.60	1.36	1.62	1.77	1.41	1.48	1.43
前月差	▲0.02	▲0.02	0.00	▲0.01	▲0.03	▲0.02	▲0.05	▲0.01

また、関西7月の新規求人倍率は2.50倍で前月比+0.06ポイント上昇し、3カ月ぶりに改善。内訳をみると、新規求人数は同+0.5%と2カ月ぶりに増加。新規求職者数は同-1.9%と3カ月ぶりのマイナス。

全国7月の有効求人倍率(季節調整値)は1.59倍と-0.02ポイント、新規求人倍率は2.34倍で同-0.02ポイント低下し、いずれも3カ月連続で悪化した。

## (2) 完全失業率の推移

関西7月の完全失業率(季節調整値: APIR 推計)は2.4%と前月比-0.3%ポイント低下し2カ月連続で改善。完全失業者数(季節調整値: APIR 推計)は26.4万人で前月差-2.6万人と3カ月連続で減少した。労働力人口(季節調整値: APIR 推計)は、前月差+8.3万人と2カ月ぶりに増加。また、就業者数(季節調整値: APIR 推計)も同+15.0万人と2カ月ぶりに増加した。雇用情勢は堅調である。

全国7月の完全失業率(季節調整値)は2.2%と、前月比-0.1%ポイント低下し2カ月連続の改善。完全失業者数(季節調整値)は154万人となり前月差-7万人、4カ月連続で減少した。理由別では、「非自発的な離職」(36万人)は同-1万人減少、「自発的な離職(自己都合)」(68万人)は同+1万人増加、「新たに求職」(35万人)は同-6万人減少した。。

完全失業率の推移(2010年1月~2019年7月)



(出所) 総務省「労働力調査」

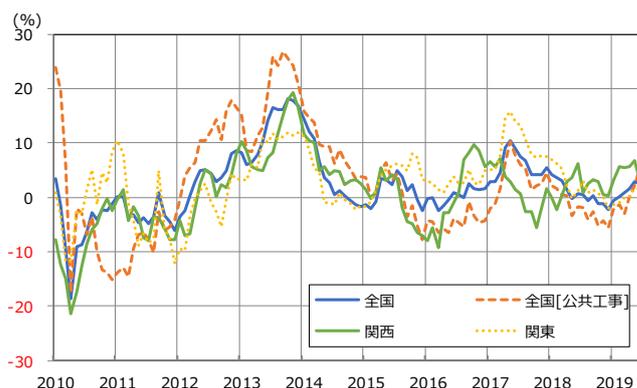
## 【公共投資・建設工事】

### (1) 建設工事

関西7月の建設工事出来高は5,458億円となり、前年同月比+8.1%と17カ月連続で増加した。関東は1兆5,522億円となり、同-1.9%と5カ月ぶりに減少した。

全国7月の建設工事出来高は4兆3,434億円と、前年同月比+1.9%と6カ月連続で増加した。うち、民間工事は2兆7,272億円で同+0.1%と小幅増加し、52カ月連続のプラス。公共工事は1兆6,162億円で同+4.9%と4カ月連続の増加。19年度本予算(公共工事)の効果があらわれている。

建設工事出来高の推移(2010年1月~2019年7月)

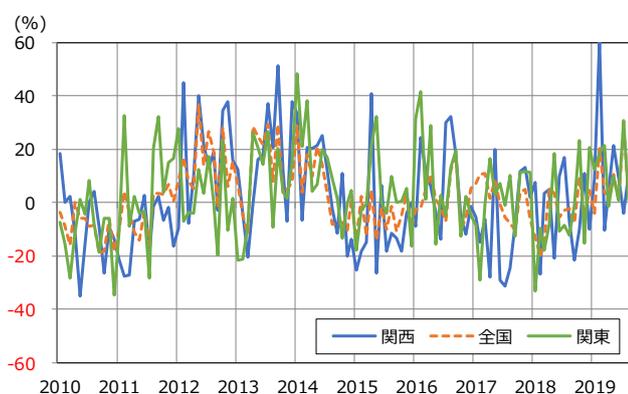


(注) 2016年4月分より新推計に基づく出来高の参考値を反映。(出所) 国土交通省「建設総合統計」

## (2) 公共工事請負金額

関西 8 月の公共工事請負金額は 1,060 億円で前年同月比 +11.1%と 2 カ月ぶりの増加。季節調整値(APIR 推計)でも、前月比+2.2%と 3 カ月ぶりの増加となり、持ち直しの動きがみられた。工事場所別にみると、増加したのは兵庫県(同前年同月比+20.3%)、滋賀県(同+17.3%)、和歌山県(同+16.9%)、奈良県(同+15.9%)であった。一方、減少したのは京都府(同-3.4%)と大阪府(同-1.0%)であった。

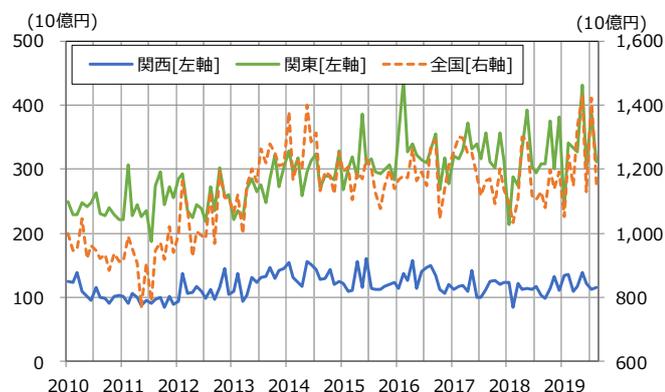
公共工事請負金額(伸び率)の推移(2010年1月~2019年8月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

関東は 2,969 億円で前年同月比+1.0%と 4 カ月連続の増加。全国は 1 兆 1,493 億円で同+2.2%と 7 カ月連続の増加となった。季節調整値(APIR 推計)で見ると、関東は前月比-19.1%、全国は同-18.7%と、いずれも 2 カ月ぶりの大幅減少となった。

公共工事請負金額(季調値)の推移(2010年1月~2019年8月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

## 【関空モニター】

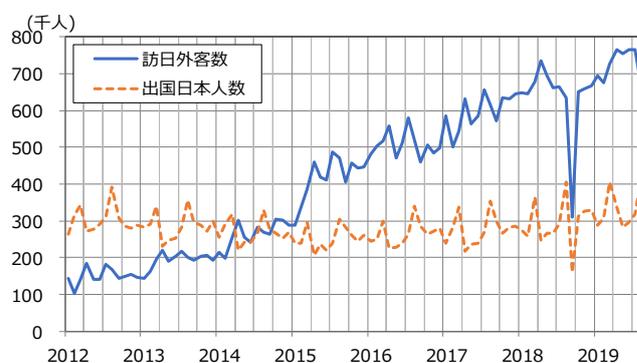
### (1) 訪日外客数トレンド

8 月の関空への外国人入国者数は 66 万 6,350 人となり、伸びは前年同月比+4.9%と 11 カ月連続のプラスだが、伸びは前月(同+15.5%)より大幅減速。日韓関係の悪化による航空路線の運休・減便の影響がみられるようである。

また、外国人出国者数は 71 万 4,560 人と同+6.5%で 10 カ月連続の増加。結果、外国人出入国者数は 138 万 910 人で同+5.7%と 11 カ月連続の増加となった。

日本人出国者数は 41 万 5,330 人で、前年同月比+2.6%と 11 カ月連続で増加した。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2012年1月~2019年8月)



(出所)一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

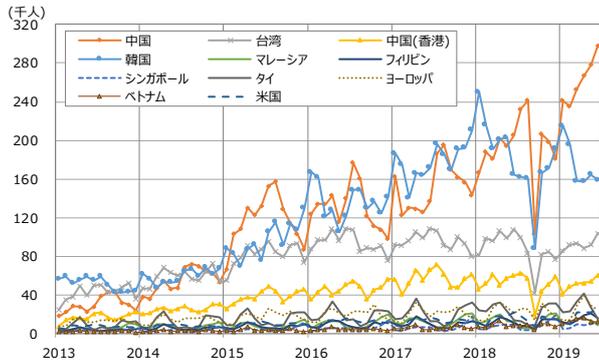
### (2) 地域別訪日外客数

6 月の関空訪日外客数を国籍別・地域別にみると、中国(香港除く)からの入国者が 29 万 8,306 人(前年同月比+45.3%)と最多であった。次いで、韓国が 15 万 8,789 人(同-3.5%)、台湾が 10 万 3,630 人(同-3.6%)、香港が 6 万 179 人(同+1.0%)であった。中国は 9 カ月連続の前年比増加、香港は 2 カ月ぶりの増加だが、台湾は 5 カ月連続、韓国は 13 カ月連続で前年比減少した。

他のアジア各国は、フィリピンが 1 万 5,243 人(同+42.3%)、タイが 1 万 4,314 人(前年同月比+5.3%)、シンガポールが 1 万 2,126 人(同+43.4%)、ベトナムが 1 万 1,442 人(同+49.2%)、マレーシアが 8,004 人(同-33.8%)であった。フィリピンは 5 カ月連続、ベトナムは 9 カ月連続

二桁の伸びで、伸びは堅調である。アジア以外の他地域を見ると、欧州全体では2万3,956人(同+17.8%)、米国が2万5,863人(同+17.3%)であった。米国は9カ月連続の二桁の伸びが続いている。

地域別訪日外客数(2019年6月まで)



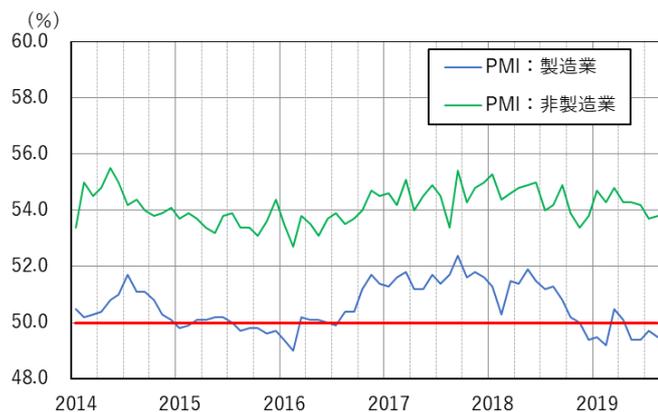
(出所) 法務省「出入国管理統計」

## 【中国景気モニター】

### (1) センチメント

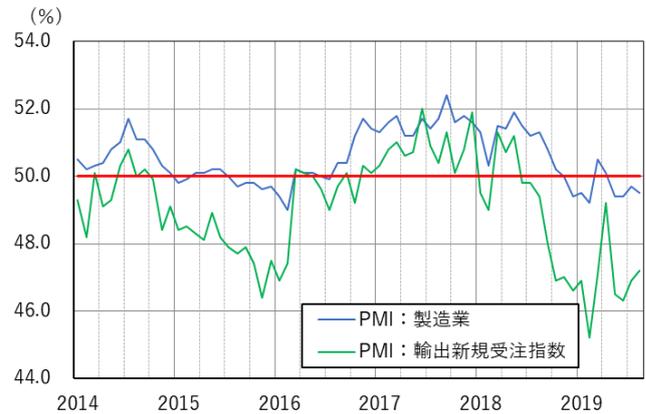
8月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.5となり、前月から-0.2%ポイント下落した。4カ月連続で景気分岐点(50)を下回っている。非製造業PMIは53.8となり、同+0.1%ポイントと3カ月ぶり上昇した。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2014年1月~2019年8月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

製造業購買担当者景況指数(2014年1月~2019年8月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

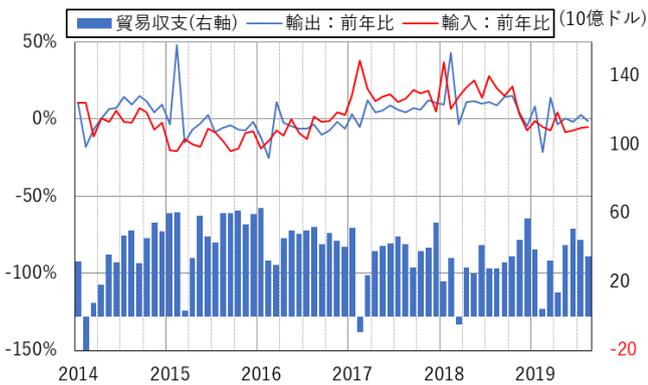
製造業 PMIのうち、生産指数は51.9と前月から-0.2%ポイント下落し、2カ月ぶりの悪化。輸出新規受注指数は47.2と同+0.3%ポイント上昇し、2カ月連続の改善。雇用指数は46.9と同-0.2%ポイント低下し、29カ月連続で50を下回った。

### (2) 貿易動向

8月の貿易収支は348.3億ドルで17カ月連続の黒字となった。輸出額(速報値, ドル・ベース)は2,148.0億ドル、前年同月比-1.2%と2カ月ぶりの減少。輸入額は1,799.7億ドル、同-5.0%と4カ月連続で減少した。

また、対日貿易収支は-26.2億ドルとなり、31カ月連続の赤字となった。対日輸出額は117.5億ドルとなり、前年同月比+1.5%と2カ月ぶりの増加。対日輸入額は143.7億ドルとなり、同-8.8%で4カ月連続の減少。なお、貿易総額は同-4.4%減少し、7カ月連続のマイナス。米中貿易摩擦の昂進の影響を受け、日中間の貿易も縮小傾向にある。円ベースでみると、対日輸出額は同-2.8%と2カ月連続の減少、対日輸入額は同-12.7%と4カ月連続の減少である。

中国の貿易動向(ドル・ベース, 2014年1月~2019年8月)



(出所)中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

日本との貿易(円ベース, 2014年1月~2019年8月)



(出所)中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

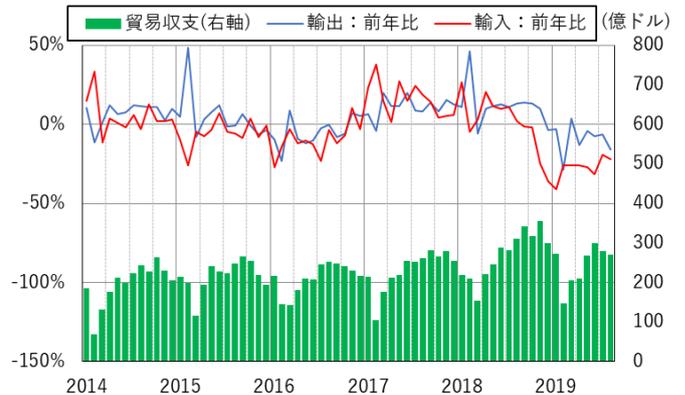
**[対米貿易]**

8月の中国の対米貿易黒字は269.5億ドル(前月:279.7億ドル)となり、前年同月比-13.2%と2カ月連続に縮小した。同月の対米輸出額は373.0億ドルと同-16.0%で、5カ月連続の減少。一方、対米輸入額は103.5億ドルとなり、同-22.3%と12カ月連続の減少であった。

米中貿易摩擦昂進の影響はデータに表れており、貿易をはじめ、中国経済の弱さが目立った。このため、米中閣僚は9月5日に、ワシントンで第13回閣僚級貿易協議(10月上旬)を行うことを決定した。11日に中国国務院は対米制裁関税の第一回除外リスト(17日発効)を公表し、同日、トランプ大統領は、10月1日発効する中国輸入品2,500億ドル分に対する関税の引き上げを15日まで延期することを表明した。これは、両国政府が激化しつつある貿易摩擦に対する「善意のしる

し」であるとみられている。9月17日、米中副閣僚級代表は、第13回閣僚級貿易協議の事前準備のため、ワシントンで会談を行った。貿易摩擦の収束については依然不透明であるが、摩擦緩和の兆候が現れていると思われる。

対米輸出入の動向(2014年1月~2019年8月)

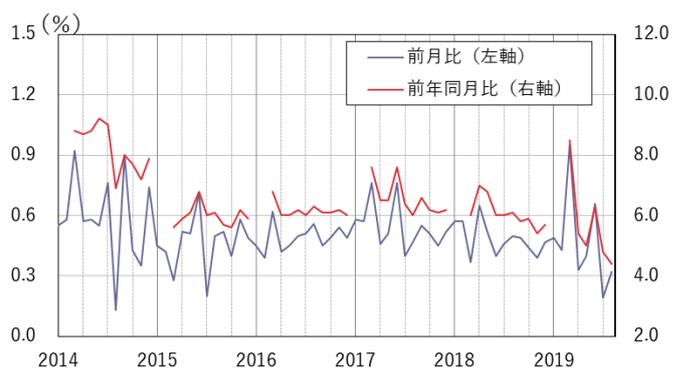


(出所)中国国家統計局; CEIC データベース

**(3) 工業生産**

8月の工業生産は前月比+0.32%の伸びとなり、前月から+0.13%ポイント上昇した。2カ月ぶりの加速。また、前年同月比+4.4%となり、伸びは前月から-0.4%ポイント低下し、2カ月連続の減速である。リーマンショック直後の低水準(2008年11月:+5.4%)となった。

工業生産指数(2014年1月~2019年8月)



(出所)中国国家統計局; CEIC データベース

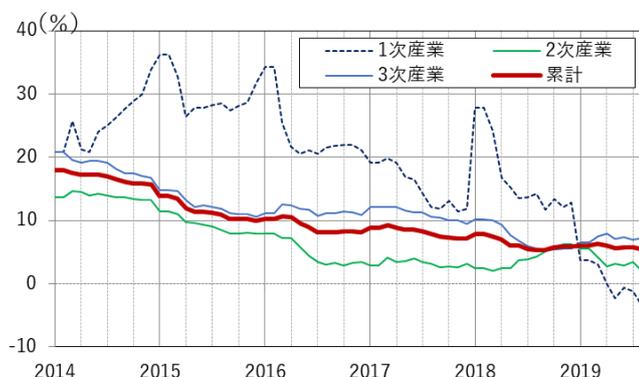
産業別に見ると、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(前年同月比+10.4%)、電気機械・機材製造業(同+10.0%)、有色金属圧延加工業(同+8.5%)などが高い伸びを示した。また、自動車製造業は同+4.3%と5カ月ぶりのプラスとなった。一方で、

化学原料・化学製品製造業(同+1.2%)、金属製品製造業(同+0.9%)、繊維工業(同+0.1%)などは低調な伸びにとどまった。なお、農業副食品加工業と通用設備製造業の成長率は、前年同月比横ばいとなった。

#### (4) 固定資産投資

2019年1-8月期の累積固定資産投資(名目)は前年同期比+5.5%となり、1-7月期から-0.2%ポイント低下し、2カ月連続の減速。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2014年1月~2019年8月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

産業別に見れば、第1次産業は前年同期比-3.4%と5カ月連続減少し、伸びは前月から-2.2%ポイント低下し、2カ月連続の減速。第2次産業は同+2.1%と前月から-1.3%ポイント下落し、2カ月ぶりに減速した。第3次産業は同+7.3%で、伸びは前月から+0.3%ポイント上昇し、2カ月ぶりの加速。

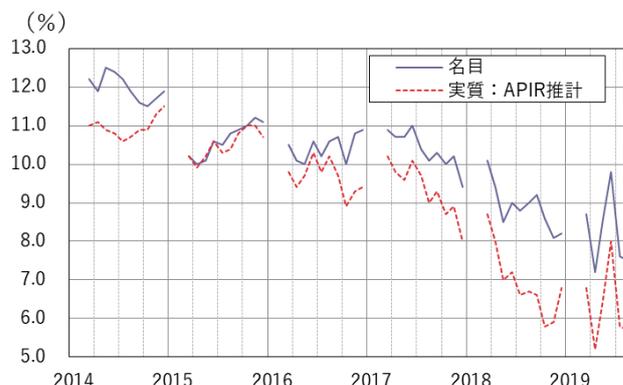
#### (5) 消費

8月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+7.5%となり、伸びは前月から-0.1%ポイント小幅低下し、2カ月連続の減速。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR推計)をみると、伸びは同+5.7%と前月から-0.1%ポイント低下し、2カ月連続の減速。

都市部の社会消費品小売総額の前年同月比は+7.2%となり、伸びは前月から-0.2%ポイント低下した(2カ月連続の減速)。農村部の社会消費品小売総額は同+8.9%となり、伸びは前月より+0.3%ポイント上昇した(2カ月ぶりの加速)。

8月の電子商取引の社会消費品小売総額は8,421億円で、前年同月比は+14.8%と、伸びは前月より+4.1%ポイント上昇し、4カ月ぶりの加速であった。

社会消費品小売総額(2014年1月~2019年8月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

#### (6) 物価水準

8月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+2.8%で、前月と横ばい。うち、食品価格は同+10.0%上昇し、前月から+0.9%ポイント加速した。また、CPIへの寄与度は+1.93%ポイントであった。なお、果物と豚肉価格は、同+24.0%(前月から-15.1%ポイント減速)と+46.7%(前月から+19.7%ポイント加速)それぞれ上昇した。一方、野菜価格は同-0.8%低下し、19カ月ぶりに下落した。

消費者物価指数・生産者物価指数(2014年1月~2019年8月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

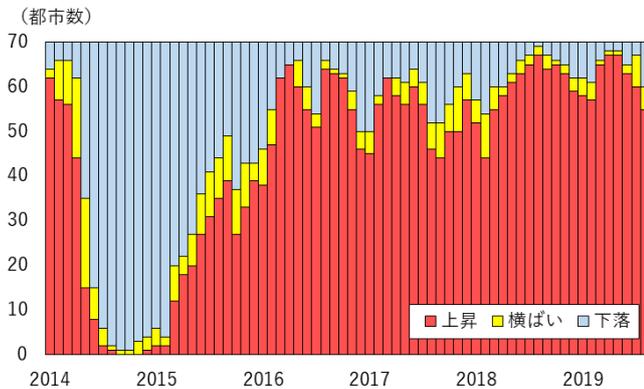
生産者物価指数(PPI)は前年同月比-0.8%となり、2カ月連続の下落。国際商品市況の軟化の影響が継続している。うち、

生産財(生産資料)価格は同-1.3%下落し、前月から-0.6%ポイント減速した。消費財(生活資料)価格は同+0.7%上昇したが、前月から-0.1%ポイント減速した。

### (7) 不動産市場

8月の不動産市場はやや冷え込んでいる。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要70都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は55で前月から5都市減少した(3カ月連続)。一方、下落した都市数は10で前月から7都市増加し(2カ月ぶり)。また、横ばいの都市数は5で前月から2都市減少した(3カ月ぶり)。

新築住宅価格の主要都市集計(2014年1月~2019年8月)

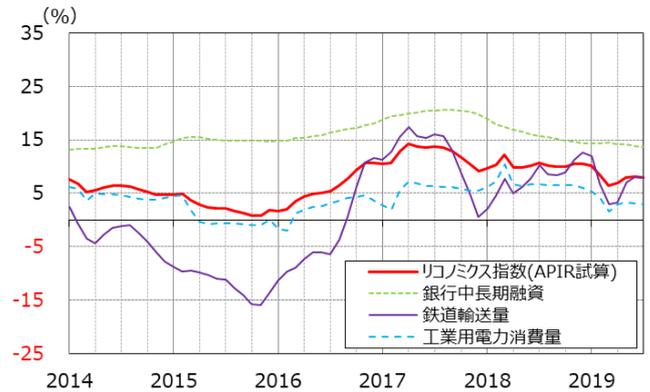


(出所)中国国家统计局; CEICデータベース

### (8) リコノミクス指数

7月のリコノミクス指数(APIR 試算)は前年同月比+7.9%と前月から-0.2%ポイント小幅下落し、4カ月ぶりの減速であった。内訳をみると、銀行中長期融資は同+13.6%となり、伸びは前月から同-0.2%ポイント低下し、4カ月連続で減速した。鉄道輸送量は同+7.8%となり、伸びは前月から-0.2%ポイント下落し、4カ月ぶりの減速であった。工業用電力消費量は同+3.0%となり、伸びは前月から同-0.2%ポイント減少し、2カ月連続で減速している。

APIR 試算のリコノミクス指数とその内訳(2019年7月まで)



(出所)中国国家统计局; CEICデータベース

Contact : 野村亮輔

Tel. 06-6485-7694

E-mail. [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp)

【主要月次統計】

月次統計	18/8M	18/9M	18/10M	18/11M	18/12M	19/1M	19/2M	19/3M	19/4M	19/5M	19/6M	19/7M	19/8M
景況感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	49.7	49.0	51.3	50.8	49.9	45.4	48.0	47.0	47.2	45.1	45.0	43.8	45.3
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	51.1	52.2	51.9	53.1	47.4	50.7	50.4	50.6	51.0	47.5	49.8	46.3	42.3
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	48.7	48.3	48.6	49.5	46.8	45.6	47.5	44.8	45.3	44.1	44.0	41.2	42.8
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	51.1	51.0	50.0	50.8	47.9	49.4	48.9	48.6	48.4	45.6	45.8	44.3	39.7
消費者心理・小売													
[関西]消費者態度指数(原数値)	43.2	42.7	42.6	42.4	42.5	41.8	40.6	40.1	40.0	39.5	39.0	38.2	36.9
[関西]「暮らし向き」(原数値)	41.2	39.6	40.5	40.3	40.6	40.2	38.1	37.2	37.3	37.1	36.9	36.4	35.5
[関西]「収入の増え方」(原数値)	41.8	41.8	40.8	40.9	40.6	40.8	39.8	39.2	39.3	40.0	39.7	39.6	39.6
[関西]「雇用環境」(原数値)	47.9	47.1	46.6	46.4	46.0	44.1	44.1	44.0	44.2	43.2	43.4	42.0	41.1
[関西]「耐久消費財の買い時判断」(原数値)	41.7	42.2	42.3	42.0	42.6	41.9	40.5	39.8	39.0	37.5	35.8	34.7	31.3
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	43.3	43.3	42.9	42.8	42.6	41.8	41.5	40.5	40.4	39.4	38.7	37.8	37.1
[関西]大型小売店販売額(10億円)	304.9	287.8	310.5	321.4	407.1	321.5	282.5	317.7	302.5	304.1	308.1	319.6	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	-0.2	-2.0	0.1	-2.4	-0.8	-3.4	-1.3	0.2	-0.8	0.4	0.5	-3.4	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,575.1	1,513.5	1,586.2	1,643.7	2,082.5	1,632.2	1,434.5	1,654.4	1,535.4	1,563.1	1,597.7	1,624.2	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	0.6	1.1	-0.2	-1.7	-0.5	-3.0	-1.5	1.0	-1.4	-0.2	-0.3	-4.5	UN
住宅・建設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	11,768	12,545	11,496	12,329	11,360	11,371	11,310	11,626	11,897	10,253	11,318	12,849	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比%)	-0.2	10.5	-5.5	4.8	11.1	23.7	-0.7	7.8	-11.2	-27.5	-3.6	5.7	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	81,860	81,903	83,330	84,213	78,364	67,087	71,966	76,558	79,389	72,581	81,541	79,232	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比%)	1.6	-1.5	0.3	-0.6	2.1	1.1	4.2	10.0	-5.7	-8.7	0.3	-4.1	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	76.8	75.7	78.2	73.6	75.1	70.5	75.2	83.0	76.1	67.0	70.9	82.5	80.9
[関西]マンション契約率(原数値)	80.6	72.8	77.7	74.4	72.1	70.2	75.8	80.6	75.9	67.7	73.3	83.1	84.9
[首都圏]マンション契約率(季節調整値)	64.2	64.9	73.1	55.5	50.2	70.8	64.6	69.2	65.5	60.1	64.2	63.2	75.0
[首都圏]マンション契約率(原数値)	64.5	66.5	68.3	53.9	49.4	67.5	65.5	72.2	64.3	60.0	65.9	67.9	75.4
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	95.4	109.3	116.9	94.7	88.0	71.4	80.0	109.3	220.6	141.5	147.1	135.3	106.0
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	-7.1	-21.6	-10.0	10.9	-9.8	9.1	60.5	-10.5	4.2	21.6	9.4	-4.0	11.1
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,124.1	1,218.6	1,282.3	818.9	834.0	585.3	739.0	1,316.5	2,232.9	1,420.4	1,447.9	1,609.1	1,149.3
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	-2.2	-7.6	9.5	-5.2	4.6	-4.1	20.4	3.7	2.5	10.5	1.0	28.5	2.2
[関西]建設工事(総合、10億円)	529.4	554.3	564.2	589.8	610.4	607.9	602.7	589.7	511.8	514.7	530.2	545.8	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	2.5	3.3	3.0	0.5	0.2	3.0	5.7	5.6	5.6	6.7	3.3	8.1	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,447.2	4,705.1	4,850.7	4,915.6	4,945.3	4,897.0	4,811.8	4,790.7	4,023.6	4,002.9	4,231.1	4,343.4	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	-0.5	0.3	-1.1	-1.1	-2.2	-0.7	0.1	0.8	1.6	2.8	2.6	1.9	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	1,642.2	1,826.6	1,938.5	1,996.5	2,042.5	2,047.5	2,013.0	1,985.8	1,456.7	1,410.4	1,558.4	1,616.2	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	-4.1	-2.6	-5.2	-4.2	-5.6	-2.3	-1.4	-3.0	0.1	2.1	5.3	4.9	UN
生産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	104.3	103.4	106.5	104.5	103.9	102.5	102.4	99.6	101.3	102.5	100.0	104.7	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.1	-0.9	3.0	-1.9	-0.6	-1.3	-0.1	-2.7	1.7	1.2	-2.4	4.7	UN
[関西]「出荷指数(原数値、前年同月比%)	-0.3	-3.4	8.3	1.2	-3.2	-0.2	-3.9	-7.0	-3.6	-4.2	-7.3	2.8	UN
[関西]「在庫指数(原数値、前年同月比%)	-2.6	0.1	-4.0	-2.8	-1.7	-2.8	-1.3	-0.2	0.4	0.3	5.6	6.6	UN
[関西]「出荷指数(季節調整値、10年=100)	105.0	102.8	109.2	104.1	103.1	103.0	100.6	99.7	100.6	102.8	97.9	104.3	UN
[関西]「出荷指数(季節調整値、前月比)	1.8	-2.1	6.2	-4.7	-1.0	-0.1	-2.3	-0.9	0.9	2.2	-4.8	6.5	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、10年=100)	97.7	98.8	98.8	99.0	100.1	98.6	100.0	101.8	102.0	101.0	105.0	105.0	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、前月比)	-0.8	1.1	0.0	0.2	1.1	-1.5	1.4	1.8	0.2	-1.0	4.0	0.0	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	103.6	103.5	105.6	104.6	104.7	102.1	102.8	102.2	102.8	104.9	101.4	102.7	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	-0.2	-0.1	2.0	-0.9	0.1	-2.5	0.7	-0.6	0.6	2.0	-3.3	1.3	UN
[全国]「出荷指数(原数値、前年同月比%)	0.9	-2.9	5.7	1.1	-3.1	-0.1	-0.3	-4.0	-1.4	-1.8	-4.9	1.9	UN
[全国]「在庫指数(原数値、前年同月比%)	2.9	3.5	-0.9	0.4	1.7	1.2	1.4	0.2	1.2	1.5	3.0	2.5	UN
[全国]「出荷指数(季節調整値、10年=100)	103.0	102.1	104.4	102.8	103.1	100.6	102.2	100.9	102.7	104.0	99.8	102.5	UN
[全国]「出荷指数(季節調整値、前月比)	0.9	-0.9	2.3	-1.5	0.3	-2.4	1.6	-1.3	1.8	1.3	-4.0	2.7	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、10年=100)	101.8	102.0	101.5	101.6	102.9	102.0	102.4	103.8	103.8	104.3	104.7	104.5	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、前月比)	-0.1	0.2	-0.5	0.1	1.3	-0.9	0.4	1.4	0.0	0.5	0.4	-0.2	UN
労働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	0.5	-1.1	0.4	2.0	-1.7	1.0	0.1	-2.1	-0.1	0.0	UN	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比%)	0.8	-0.6	0.9	2.6	-1.3	1.3	0.7	-2.0	0.4	0.2	UN	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	0.6	0.7	1.1	1.7	1.5	-0.6	-0.7	-1.3	-0.3	-0.5	0.4	-1.0	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	2.9	2.8	3.0	3.4	2.9	2.8	2.6	2.8	2.8	2.9	2.7	2.4	UN
[関西]完全失業率(原数値)	3.0	3.1	3.0	3.1	2.6	2.7	2.7	2.8	2.7	2.8	2.8	2.6	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	2.4	2.4	2.4	2.5	2.4	2.5	2.3	2.5	2.4	2.4	2.3	2.2	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.49	2.56	2.51	2.47	2.47	2.60	2.61	2.49	2.62	2.52	2.44	2.50	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.39	2.44	2.40	2.40	2.40	2.48	2.50	2.42	2.48	2.43	2.36	2.34	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.62	1.63	1.62	1.62	1.62	1.61	1.62	1.62	1.64	1.63	1.62	1.60	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.63	1.63	1.62	1.63	1.63	1.63	1.63	1.63	1.63	1.62	1.61	1.59	UN
国際貿易													
[関西]純輸出(10億円)	175.1	177.5	113.4	19.1	178.9	-184.6	213.8	273.5	101.0	-9.4	269.9	69.1	121.0
[関西]輸出(10億円)	1,516.5	1,110.1	1,517.2	1,504.9	1,474.8	1,179.9	1,320.0	1,500.1	1,354.5	1,250.9	1,350.3	1,410.2	1,321.4
[関西]輸出(前年同月比%)	9.7	-25.1	6.4	-1.0	-7.2	-8.9	-1.9	-6.3	-5.7	-10.4	-10.9	-1.7	-12.9
[関西]輸入(10億円)	1,341.4	932.6	1,403.8	1,485.9	1,295.9	1,364.5	1,106.2	1,226.6	1,253.5	1,260.3	1,080.4	1,341.1	1,200.4
[関西]輸入(前年同月比%)	9.9	-24.3	10.9	9.5	-2.8	0.1	-9.8	-1.4	3.6	-5.1	-13.8	-0.6	-10.5

注：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く。

## Release Calendar for August/September

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
26-Aug 毎月勤労統計調査 (6月:確報値)	27-Aug 近畿地域鉱工業生産 動向(6月:確報)	28-Aug	29-Aug 消費動向調査(8月) 全国貿易統計 (6月:確報値) 全国貿易統計 (7月:確・速)	30-Aug 一般職業紹介状況 (7月) 労働力調査(7月) 建築着工統計調査 (7月) 商業動態統計 (7月:速報値) 全国鉱工業生産指数 (7月:速報値)
2-Sep 中国CPI&PPI (8月)	3-Sep	4-Sep	5-Sep	6-Sep 毎月勤労統計調査 (7月:速報値) 百貨店・スーパー販売 状況(7月:速報値)
9-Sep 景気ウォッチャー 調査(8月) 中国輸出入 (8月:速報値)	10-Sep 近畿地域鉱工業生産 動向(7月:速報) 近畿圏貿易概況 (6月:確報値) 近畿圏貿易概況 (7月:確・速)	11-Sep	12-Sep	13-Sep 商業動態統計 (7月:確報値) 全国鉱工業生産指数 (7月:確報値) 公共工事前払金保証 統計(8月)
16-Sep 敬老の日 中国固定資産投資 (8月) 中国工業生産 (8月) 中国消費品小売総額 (8月)	17-Sep 建設総合統計(7月) マンション市場動向 (8月) 中国不動産市場 (8月)	18-Sep 全国貿易統計 (8月:速報値) 近畿圏貿易概況 (8月:速報値)	19-Sep 出入国者数(8月)	20-Sep 毎月勤労統計調査 (7月:確報値)
23-Sep 秋分の日 中国輸出入 (8月:確定値)	24-Sep	25-Sep	26-Sep 出入国管理統計(7月)	27-Sep 全国貿易統計 (7月:確報値) 全国貿易統計 (8月:確・速)
30-Sep 商業動態統計 (8月:速報値) 全国鉱工業生産指数 (8月:速報値) 建築着工統計調査 (8月)	1-Oct 労働力調査(8月) 一般職業紹介状況 (8月)	2-Oct 消費動向調査(9月)	3-Oct	4-Oct

\*印は発表予定日が未定。 \*\*公表日は翌日。